

世界四大アニメーション映画祭の一つ「広島国際アニメーションフェスティバル」。世界恒久平和を願い、「愛と平和」を発信する映画祭です。被爆40周年の1985年に第1回が開催され、それ以降2年に1度開催されてきました。

フェスティバルの歴史と魅力、また大会を支えるボランティアの皆さんの声をご紹介します。

図文化振興課アニメーションフェスティバル担当(☎245-0245、☎504-5658)

### 歴代のグランプリなど

コンペティション(公開審査)では、国際審査委員が選定するグランプリ、ヒロシマ賞、デビュー賞、木下蓮三賞のほか観客賞があり、グランプリに輝いた作品は米国アカデミー賞ノミネートの選考対象にもなります。

#### ▼第1回大会グランプリ

「おんぼろフィルム」手塚治虫  
全編ギャグとナンセンスにあふれたパロディアニメーション



◀第8回大会優秀賞  
「老人と海」アレクサンドル ペトロフ

©WOWOW PLUS / NHK ENTERPRISES / DENTSU TEC



◀第9回大会グランプリ  
「父と娘」マイケル デウドク ドゥヴィット

©2000 - Cloudrunner Ltd and CinéTé Filmproduktie bv

### フェスティバルのここがすごい!

01 世界に誇れる映画祭  
世界四大アニメーション映画祭(アヌシー、ザグレブ、オタワ、広島)の一つ

02 米国アカデミー賞のノミネート候補  
グランプリに輝いた作品は、米国アカデミー賞ノミネートの選考対象に

03 世界の第一線の作品、作家が集結  
前大会のコンペティションでは過去最多の88カ国・地域から2,842作品の応募

04 プロもあこがれる大御所が多数参加  
「白雪姫」「ピノキオ」を作ったディズニーのウォード キンボール氏など世界の巨匠も過去に参加

05 アカデミー賞作家が多数参加  
第12回のヒロシマ賞を受賞した加藤久仁生氏は、「つみきのいえ」で2009年アカデミー賞を受賞

06 学校、学生、企業を結び場  
プロを目指す若者たちの持ち込み上映や、子どもたちのためのアニメーションワークショップなども充実

07 日本・地域文化などの魅力紹介  
ボランティアの協力で、海外からの多くのゲストに地域の魅力や産業を紹介

08 市民の温かい支援もてなしの心  
地元企業の支援や市民ボランティアのもてなしの心が大会を支えている

### フェスティバルを支えるボランティアの声

子どもの可能性を広げるアニメーション

ラッピー合唱団・キッズクリップ(三樹正典さん)

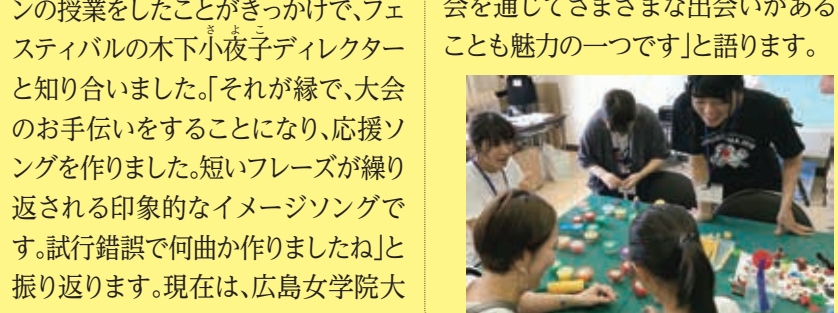
第13回大会から、公式応援ソング「飛び出せラッピー」を元気に歌い、開会式や閉会式を盛り上げてきた「ラッピー合唱団」(メイン写真)。子どもたちによるこの合唱団を率いるのは、応援ソングを作った三樹正典さん。大学教授という本業のかたわら、アマチュアバンド「TE@CHERS(ティーチャーズ)」で活動しているミュージシャンでもあります。

人を元気づけるアニメーション

「アニメーションの魅力は、子どもが持つ想像力を引き出せること。作品に命を吹き込むことができる楽しさです。この大会をきっかけにアニメーションを卒業制作に選んだ学生もいました。キッズクリップに幼稚園のころから参加し、大きくなってからもずっと参加している子もいます。子どもたちの可能性を広げ、人を元気づけることができるアニメーション。大会を通じてさまざまな出会いがあることも魅力の一つです」と語ります。

印象的な公式応援ソング

かつて中学校で美術教師をしていた三樹さんは、アニメーションの授業をしたことがきっかけで、フェスティバルの木下小夜子ディレクターと知り合いました。「それが縁で、大会のお手伝いをする事になり、応援ソングを作りました。短いフレーズが繰り返される印象的なイメージソングです。試行錯誤で何曲か作りましたね」と振り返ります。現在は、広島女学院大



三樹さんのおすすめ! 内容が難しい作品が多いイメージですが、奇抜さや難解さもアートとして楽しむといいですよ。日常に近い体験ができ、繰り返し見ていると新しい発見もたくさんあります。自分の好きな作品を見つけてみては?

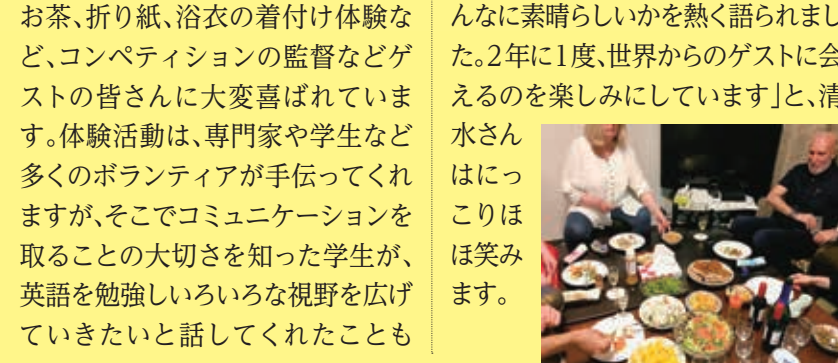
一般の市民とスタッフが共におもてなし

日本文化体験・ラッピーパーティー(清水敦子さん)

大学を卒業後、得意な英語を生かし、フェスティバルのインフォメーションセンターで海外からのゲスト対応をしてきた清水敦子さん。広島の服地専門店の5代目として忙しい日々の中、毎回、大会の準備を手伝っています。

大好評の日本文化体験

「開催期間中には、海外ゲストに日本文化体験をしてもらっています。習字、お茶、折り紙、浴衣の着付け体験など、コンペティションの監督などゲストの皆さんに大変喜ばれています。体験活動は、専門家や学生など多くのボランティアが手伝ってくれますが、そこでコミュニケーションを取る大切さを知った学生が、英語を勉強しいろいろな視野を広げていきたいと話してくれたことも



清水さんのおすすめ! さまざまなコンペティション作品がありますが、実際にそれを作った監督に会うことができ、直接話すこともできます。気に入った作品があれば、英語がしゃべれなくても「I like your work」と声を掛けるだけでもいいんです。それだけで伝わると嬉しいです!

作者の思い、作品のメッセージを引き出したい

Daily Bulletin「ラッピーニュース」(中尾達史さん)

大会期間中、5日間にわたり毎日発行されるフェスティバル日報Daily Bulletin「ラッピーニュース」の編集は、とても大変な作業です。大会当日に監督や観客などにインタビュー、その日の出来事などを取材して、翌日には速報という形で発信しています。

世界的な監督にも取材

インターネット通信会社勤務だった中尾達史さんは「私たちの会社とフェスティバルでコラボができなかと、営業に行ったのがきっかけ。まずは大会に来てみてはと言われ、軽い気持ちで行きましたが、それから16年、仕事ではなくボランティアとして、なぜか経験のなかった編集員をしています。取材時はマニアクな内容ではなく、一般的な質問をし、監督の思いを引き出すようにしています」。取材するとき



中尾さんのおすすめ! 毎回、斬新な作品を目の当たりにすることは楽しみの中の一つ。コンペティション作品の中には、次代を担うアニメーション作家の作品があるかもしれません。思いもよらない表現は、考えるよりもその芸術性を感じてみてください。



平成30年開催の第17回大会でのラッピー合唱団

### アニメーションとは?

アニメーションは、もともとラテン語のアニマ(anima)「命、魂」に由来し、「動かないものに生命を吹き込む」という意味です。つまりアニメーションは、一枚一枚の動きのない静止画が連なることで、あらゆるものがあたかも生命を持ったかのように生き生きと動き出すこと。作り手の自由な創造により、さまざまな世界を創り出すことができます。

### 広島市とアニメーション

広島にアニメーションの文化が知られるようになったのは、1985年に広島国際アニメーションフェスティバルが開催されたことがきっかけでした。それ以降、公民館などでパラパラアニメーション教室が開かれたり、教育機関など学びの場で使われたりと、今では市民に身近なものになってきています。

また、毎回大会に向けてイベントが開催され、まちのにぎわいづくり、地域活性化への取り組みも行われています。

### 今年開催年

8月20日(木)~24日(月)  
第18回  
広島国際  
アニメーション  
フェスティバル



図JMSアステールプラザ(中区加古町4-17)

世界中から応募された最新の作品を公開審査するコンペティションをはじめ、国内外の有名作家作品、世界の優秀・話題作、子ども向け作品などの上映、セミナー、展示、ワークショップなど、子どもから大人まで楽しめる総合的なアニメーション映画祭です。

今回は、国際名誉会長アレクサンドルペトロフ氏の短編作品、手塚治虫作品、イギリス・キューバの作品なども特集します。

※前売り券は5月1日から販売予定  
詳しくは

広島国際アニメーションフェスティバル 検索

図フェスティバル実行委員会  
(☎245-0245、☎504-5658)

### 大会ボランティアを募集

フェスティバルの運営に協力していただけるボランティアを募集します!

函資格、経験は問いません。英語、フランス語、中国語などの外国語で日常会話ができる人、開催期間中全てに参加できる人は大歓迎です!

図8月20日(木)~24日(月)の5日間

図JMSアステールプラザ(中区加古町4-17)

図会場受付や案内、報道機関の受付補助、会場設営・整理などの会場運営業務

【謝礼】1日当たり1,000円、オリジナルTシャツ

図フェスティバル実行委員会ホームページから申し込み



大会マスコットキャラクター「ラッピー」です!!

フェスティバルとともに誕生した、種別、性別、年齢不明の架空の生き物。

広島大会の精神である「LOVE & PEACE(愛と平和)」そして「ラッピー」の言葉にちなみ、4,762件の応募の中から「ラッピー:Lappy」と名付けられました。